

# あがつま



「兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。」

(ローマの信徒への手紙 12章1節)

## ♪ 賛美歌を歌おう ③

『わが魂を愛するイエスよ』

(讚美歌 273番)

18世紀の英国国教会内部から始まったメソジスト運動の指導者、チャールズ・ウエスレー(1712-1788)の作品です。

英国国教会の牧師であり、詩人であったサムエル・ウエスレー(1662-1735)の18番目の子として生を受けたチャールズは、詩人であった父親の影響を受け、幼少期から兄や姉妹たちと詩作をして遊んでいたといえます。後に、長兄サムエルや姉メタベルは詩人として評価を受けています。

1735年、父の後を追って英国国教会の聖職者となったチャールズは、兄であるジョン・ウエスレー(1703-1791)と共にアメリカへと渡り、従軍聖職者として植民地に入りりましたが、翌年植者たちから拒絶され、翌年

には帰国していません。

その後、同じく挫折して帰国したジョンと共にメソジスト運動を始め、当時の英国国教会の形骸化した儀式や教理に対して、自らの神の恵みの体験を重んじ、愛と奉仕による社会事業、教育活動を積極的に行うことを善として、労働者の自覚と向上を促しました。また、教育の機会に恵まれない子どもたちに一般教育を与える日曜学校や、当時の流行歌に歌詞をつけ、口語による平易な賛美歌を普及させました。そうした活動の中でチャールズは6000を超える賛美歌詩を残しています。『わが魂を愛するイエスよ』は初期の作品ですが、他の多くの作品と共に、今も愛唱されています。



(稲垣)